



12月1日に厚生労働大臣より委嘱を受けた民生・児童委員52名、「福祉と住民のつなぎ役」として新たな気持ちでスタートしました。

松伏町においても急速に高齢化が進み、単身・高齢世帯が増え、民生・児童委員の役割も重要視されています。

しかし、地域のつながりも年々希薄になり、その上、個人情報保護意識が高まり実情把握が難しくなっています。

どうぞ、地域の皆様から、担当地区の民生・児童委員にお声掛けくださいますようお願いいたします。

松伏町民生委員・児童委員協議会
会長 奥富 久枝



《民生委員・児童委員は、
いつもあなたのそばにいます》

人権 それは愛

問合せ／教育文化振興課 ☎990-9011
企画財政課 ☎991-1815

今月は「松伏町小・中学校人権作文集－第11集－」の作品の中から、小学校6年生の作品を紹介します。

私のお兄ちゃん

私の兄は、タイ人で色が黒いです。

幼稚園の時に兄は日本にやってきました。その時は、日本語がしゃべれずまわりの人たちの言うことがわからなかったそうです。そのころの兄は、いじめられていたようなのです。理由は、日本語をしゃべれなかったからだそうです。そして、一、二年前、兄が高校一年の時にまたいじめにあいました。

その時兄は、骨折をして家に帰ってきました。家にくる前に病院にいったのか、手当てはしてありました。

土曜日に、父と母は兄の通っている高校に行きました。その夜、父と母は兄にいろんなことを聞きました。私もほとんどの事は、知っていました。兄は机に「黒」などいろんな落書きをされたのです。

その時の兄の気持ちを考えたら、かわいそうでしかたがありません。すごくショックだったと思うし、もう学校へなんか行きたくないと考えたと思います。

兄は夜、高校生によばれました。そこで、数人の人達にやられました。兄は、本当は、ケンカに強いほうです。でも兄は、人をきずつけることはできないのです。きっと高校生に囲まれたんじゃないか。私はそう思いました。

なぜ、こんなことがおきたのだろうか。兄はただやられるだけでした。その頃の母はいつも心配で心配でたまらなかったそうです。なぜ兄は、そのことをはやく家族に言ってくれなかったのか。私はそう思いました。私だって兄が一番つらいのはわかります。でも、家族がいるのに、それを兄の体にきずがつく前になぜ言わなかったのか。きっと家族に心配をかけたくなかったのだと思います。

兄は、二年生に上がる前に高校をやめました。私はこう思います。もし、いじめにあわなかったら、ずっと三年間卒業まで、高校にいられたと思います。

なぜ同じ人間なのに、ただ、他の人より色が黒いというためだけなのに、兄がいじめられなければいけなかったのかと思いました。

私が一番言いたいのは、なぜいじめなくてはいけないのか。それが原因で自殺をしてしまう人もいる。自分がやられたらどう思うだろう。やった自分も心にきずが残るだろうと思います。絶対にいじめはいけない。許さない。私はそう思いました。

今、兄は美容師をめざしてがんばっています。私はこの兄がりっぱな美容師になってほしいと思います。

この人権作文は、児童・生徒のみなさんに、人権や差別について考えていただき、他人の心の痛みがわかる、差別のない・許さない・見のがさない人になってほしいと願って作成されています。

